

子どもの読書習慣を育てるために ～わたしたちができること～



問 生涯学習課 ☎ 227-6116

できることからチャレンジ！ 子どもへの働きかけ

子どもの発達段階に応じた働きかけを行うことで、子どもの読書への興味を促します。

第1期 乳幼児期

生まれる前を含む、
おおむね0～2歳



子どもと本が会うには親の働きかけが必要な時期。

- ・読み聞かせをする（生まれる前の子にも）
- ・リビングやベッドなどに本を置く

第2期 幼児期

おおむね3～5歳



読書の楽しさを知り、習慣として身に付き始める時期。読み聞かせも継続！

- ・読み聞かせをする
- ・おはなし会や読書に関連した催しに子どもと一緒に参加する

第3期 学童期

おおむね6～12歳



自分で本を選び、読めるようになる時期。本の好みも明確になってくる時期でもあります。

- ・本を読んだことをほめてあげる
- ・朝読^{※1}、家読^{※2}を行う

第4期 青年前期

おおむね13～15歳



読書への関心や読む力の差が拡大する時期。子どもが大きくなってきても働きかけは継続！

- ・子どもが興味を持っているテーマの本を紹介する

第5期 青年中期

おおむね16～18歳



自分で情報を選び、読み取る力が試される時期。

- ・大人が読んで面白かった本を薦める
- ・ビブリオバトル^{※3}に親子で参加または観覧する

※1…小中学校や高校で始業前の10分程度の時間を読書に充てる取り組みのこと。朝の読書、朝読書ともいう。

※2…家族で同じ本を読む、異なる本を読んで感想を話し合うなどして、本をきっかけに家族間のコミュニケーションを深める取り組みのこと。

※3…書評をテーマにしたゲーム。発表者がおすすめの本を5分間で紹介し、観客と発表者全員で「最も読みたくなった本」を決める。



学びの杜のいち カレードに行ってみよう！

カレードは本を読む以外にも、
○おはなし会コーナー（パオ）で絵本や紙芝居のおはなし会（詳細は19ページ）
○かがく実験教室、こども陶芸教室などのイベント
○学習室の利用
○新聞や雑誌、CD・DVDの観賞などさまざまな使い方ができます。
また、子どもだけではなく大人

令和7年3月に「野々市市子ども読書活動推進計画（第四次）」が策定されました。
子どもにとって読書とは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせないものです。この計画は、全ての子どもがいつでもどこでも自主的に読書を楽しみ、読書を通して豊かな人格を形成できる地域社会を創り出すことを目的としています。
子どもが読書に興味を持ち、自発的に読書をするためには、周囲の大人の働きかけが重要です。ここでは、子どもが読書に触れる機会を増やすためのポイントをお知らせします。家庭内でできることや施設の利用など、ぜひ参考にしてみてください。

を対象とした読み聞かせイベントも行っています。年に数回、カレードの読み聞かせサポーターが「大人のためのおはなし会」と題し、スポーツ・ライトだけをともした夜の部屋で、怪談などを雰囲気たっぷりに朗読しています。この読み聞かせを聞いた人の中から「子どもたちに読み聞かせをしたい」と新たな思いが生まれることもあります。
あまり図書館を利用することがない人、子どもが生まれて図書館の利用に興味がある人、子どもだけでなく自分も読書を楽しみたい人、19ページにカレードからのお知らせを掲載しています。ぜひ本に触れるきっかけにしてみてください。

カレードについて

住所 太平寺四丁目156番地
開館時間 午前9時～午後10時
休館日 水曜日、年末年始、特別整理期間
貸し出し 一人10冊まで、期間は2週間



カレードのホームページはこちら▶

